

## 太原での生活まとめ

加藤 佳奈子

今回は1年の生活のまとめとして、これから太原、また山西大学を訪れる方たちのために、ここ最近の太原をご紹介します。

この春に太原市長が替わり、また山西大学内でも大きな改正があったことで色々な事業がスタートし、この夏休みを挟んで街の雰囲気さらに様変わりしそうです。たとえば、

### ①交通

現在市内主要道路の改修工事が大規模に行われていて、バス停が位置も変わったり、通日も歩きにくくなったり、さらに砂埃も舞ったりして結構不便です。これは今年の秋まで続くといわれています。上の問題で一番困るのがバス停の移動です。山西大学校内で学生がよく利用する門は3つあり、留学生寮から一番近い北門、毛沢東像のある西門(旧正門)、一番大きな門の新校門で、以前はそれぞれの門の近くにバス停があったのですが、西門と新校門に面した通りは現在改修工事がされていて、どちらのバス停も使用停止になってしまっています。北門のバス停は辛うじて利用可能ですが、以前使われたバスの路線ではなく、臨時のバスが停まるようになってしまったので、いったいどの線が使えるのかわからなくなっています。現在、以前の路線に乗るには、ひとつ先のバス停まで30分ほど歩かなくてははいけません。ちなみに、この以前使われていた路線というのは877路線バスといって買い物に便利なバスです。

バスがこれだけ使いにくくなると、自転車に乗る、という手も考えなくてはなりません。購入してもいいと思いますし、街中に市民共用のパブリック自転車があるので、登録すれば無料で使えるようです(この春、北門の向かいにもこのパブリック自転車のスタンドが設置されました)。

### ②校内

先述のとおり、山西大学校内でも大きな改正があり、留学生に関する事項もこれに盛り込まれているようです。もっと留学生を迎え入れようと学校全体が動き出したということなのですが、それに伴い留学生寮や授業を行っている校舎も造りなおしたり、移動したりしています。建物以外の話では、留学生への奨学金が充実してくるとのことです。これ以降の留学生は私費留学でも個人負担額が抑えられそうです。

ただ、学校側が留学生専用食堂の建設をすすめていたりすることから、留学

生と現地学生との交流はさらに少なくなるのではないかと思います。中国人の友達をつくるのは、自分から動かなくては難しいかもしれません。

そしてこの校内改正で小さい商店や定食屋さんが一気につぶされてしまい、食堂以外の場所でご飯を食べることがほとんどできなくなってしまいました。いつも食堂のご飯では飽きるの、この機会に自炊をしてもいいのかなと思いました。

### ③買い物

買い物をする場所は去年から今年にかけて充実してきました。特に服は日本でもよく見かけるブランドがずいぶん出店をはじめ（ユニクロ、ZARA、H&M など）、日本と同じような感覚でショッピングを楽しむことができます。なので、日本から服を大量に持っていく必要はないと思います。ただ、やはり主要道路が工事中ということ、また繁華街が遠いということもありしょっちゅう行こうという気にはなりません。

ちなみに大きめのスーパー（美特好というスーパーが最寄り。他にウォルマート、カルフルなど）は以前山西大学北門のバス停を通過していたバス、877路線バス沿いにあります。

基本的に生活する上で向こうで買えないものはないと思います。しいて言えば日本食を作るための調味料でしょうか。

### ④気候

太原は1年をとおして乾燥しているので夏でも快適に過ごすことができます。最近気温が上がってきましたが、それでも湿気もなくからっとして木陰に入れば気持ちのいい風が吹いてきます。空は青空が広がり、空を見上げるたびに湿度の高い日本を想像して帰りたくないなと思ってしまいます。

最後になりましたが、太原は落ち着いていて過ごしやすく、本当にいいところ。す。「住め」といわれたら本当にここに住み着いてしまいそうです。ですが、実際には今月で太原での生活も終わってしまいます。中国の友達ともお別れです。さびしい気持ちもありますが、学べたことがいっぱいあり、この貴重なチャンスをいただけたことに、埼玉県、また山西省の方々には本当に感謝しています。これからもこの留学で得たスキルと経験を生かし、人生のステップアップにつなげていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



中国北方ではスイカの旬は初夏らしく、  
夏目前の果物屋さんにはスイカがたくさん並んでいました。  
まっぴたつに割ってスプーンですくって食べるのが一般的なようです。



今でも手動で窓を開けるような旧型の車も走っています。  
レトロな雰囲気がのんびりした太原にあっていいると思います。



都市の中心部を離れると、このように建設ラッシュの建物が現れます。  
中国の勢いはまだまだとどまるところを知らないようです。